

がん検診の受診及び精密検査の状況 (肺がん)

➤ 精度指標項目

「がん検診受診率」「要精検率」「精検受診率」「がん発見率」
「陽性反応適中度」

➤ 算出に使用したデータ

平成30年度地域保健・健康増進事業報告（政府統計窓口e-stat）

➤ 各指標の年度

○がん検診受診率

平成30年度地域保健・健康増進事業報告で示されている平成30年度
の受診率

○要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度

平成30年度地域保健・健康増進事業報告で示されている平成29年度
における精密検査の状況から算出

➤ がん検診受診率の計算式

40～69歳（胃がんは50～69歳、子宮頸がんは20～69歳）を対象

■ 大腸がん、肺がん

・ 受診率 = (受診者数 / 対象者数) × 100

■ 胃がん、子宮頸がん、乳がん

・ 受診率 = (前年度の受診者数 + 当該年度の受診者数 - 前年度及び当該年度における2年連続受診者数) / (当該年度の対象者数) × 100

※平成30年度から、国民健康保険被保険者のうちがん検診を受診した者を把握

➤ 各プロセス指標の計算式

40～74歳（子宮頸がんは20～74歳）を対象

・ 要精検率 = 要精検者数 / 受診者数 × 100

・ 精検受診率 = 精検受診者数 / 要精検者数 × 100

精検受診者数 = 要精検者数 - (精検未把握者数 + 精検未受診者数)

・ 精検未把握率 = 精検未把握者数 / 要精検者数 × 100

・ 精検未受診率 = 精検未受診者数 / 要精検者数 × 100

・ がん発見率 = がんであった者の数 / 受診者数 × 100

・ 陽性反応適中度 = がんであった者の数 / 要精検者数 × 100

※平成28年度から、「がんであった者」の表記が「がんであった者(転移性を含まない)」に変更され、原発性のみを計上

➤ 各指標を検討する際の留意点

各指標を検討するにあたっては、「がん検診に関する検討会中間報告 市町村事業におけるがん検診の事業評価の手法について（平成19年6月）」を参考に評価することが必要である。

・ 精検受診率以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率などの影響を受ける。
・ 要精検率、陽性反応適中度は、受診者の性・年齢、受診歴等のほか、検診実施機関の精度等の影響を受ける。

・ がん発見率は、有病率や早期がん割合等も踏まえて評価することが必要である。

肺がん検診 評価指標

<肺がん検診（受診率40～69歳、受診率以外40～74歳）：各指標の許容値及び目標値>

	受診率	要精検率	精検受診率	精検未受診率	精検未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
許容値	—	3.0%以下	70%以上	20%以下	10%以下	0.03%以上	1.3%以上
目標値	50%以上	—	90%以上	5%以下	5%以下	—	—

【出典】

受診率の目標値「がん対策推進基本計画（平成29年10月）」：対策型検診（職域等含む）

受診率以外の許容値・目標値「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書（平成20年3月）」

■ 各指標の達成状況

受診率	要精検率	精検受診率	精検未受診率	精検未把握率	がん発見率	陽性反応 適中度
4.4%	3.0%	85.3%	4.5%	10.2%	0.03%	1.0%

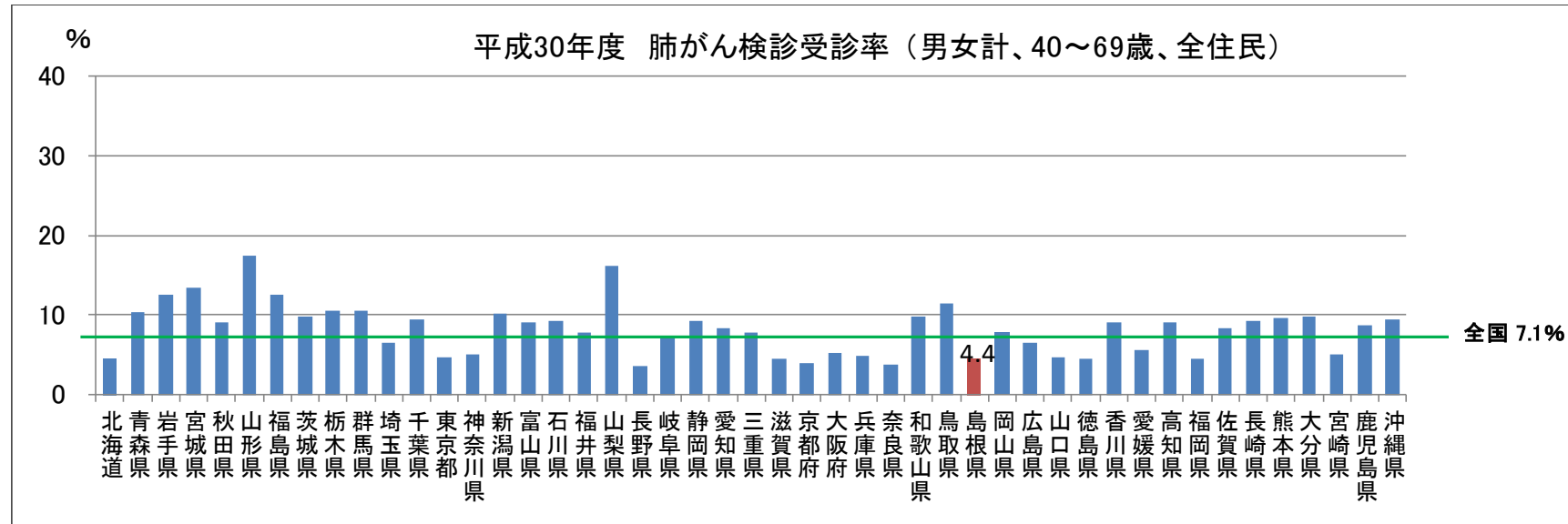
達成

許容値～目標値の間

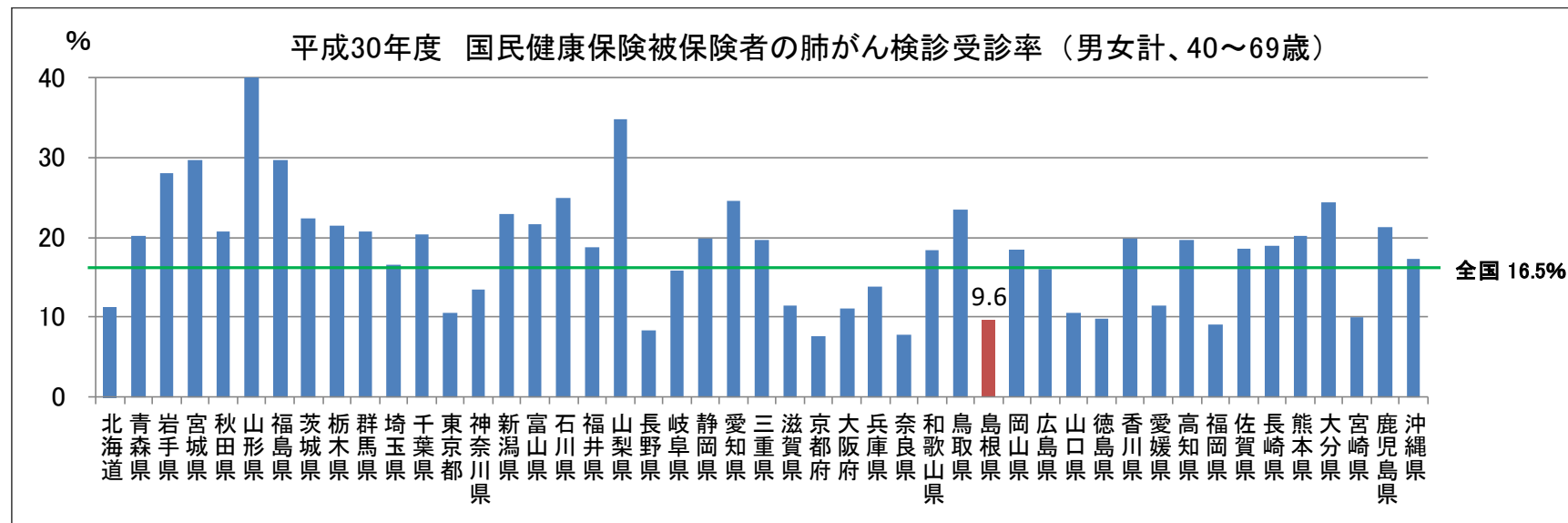
未達成

(1) 平成30年度受診率

➤ 肺がん検診受診率（全住民対象、40～69歳）は4.4%と、全国よりも低い

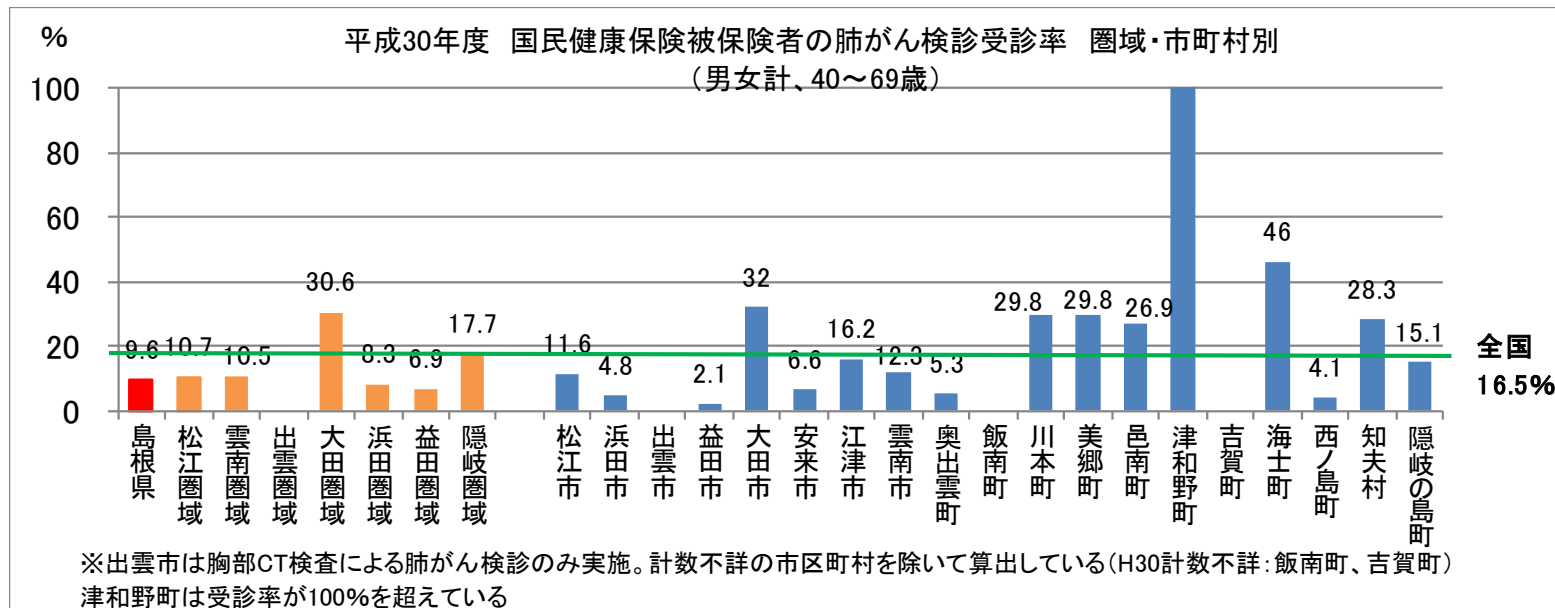
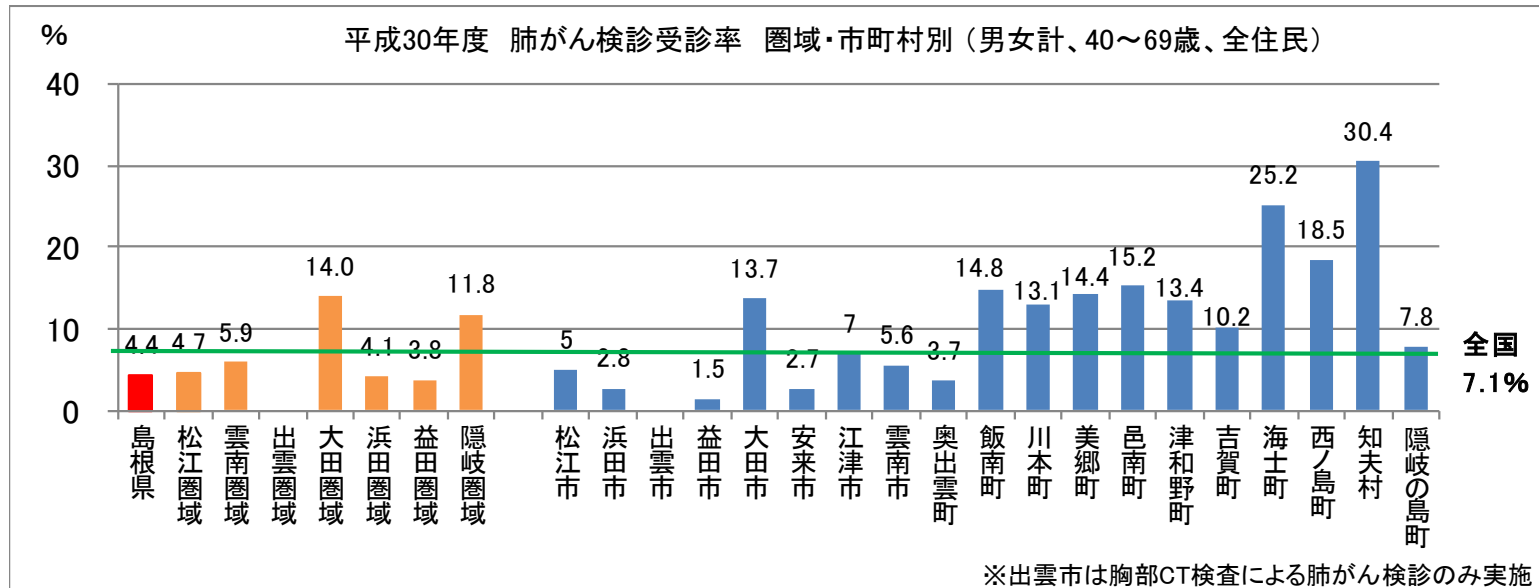


➤ 国民健康保険被保険者で肺がん検診を受けた者は9.6%と、全国よりも低い



【参考：圏域・市町村別 肺がん検診受診率】

(資料：市区町村表 第20-1表)

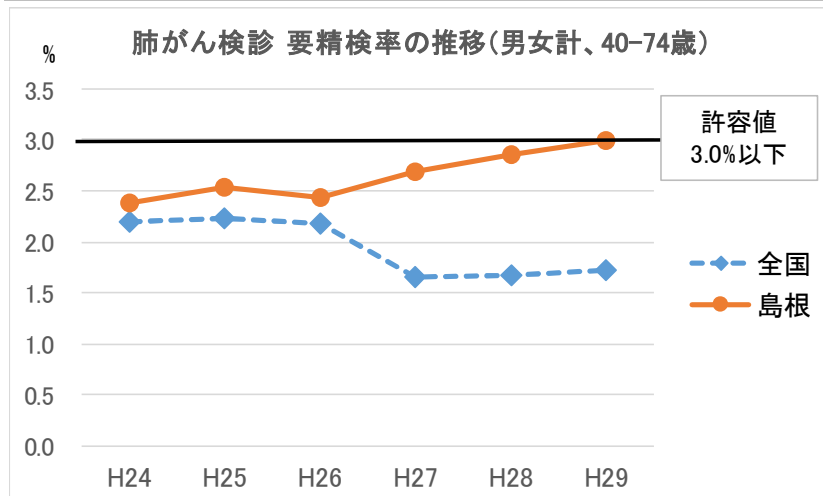
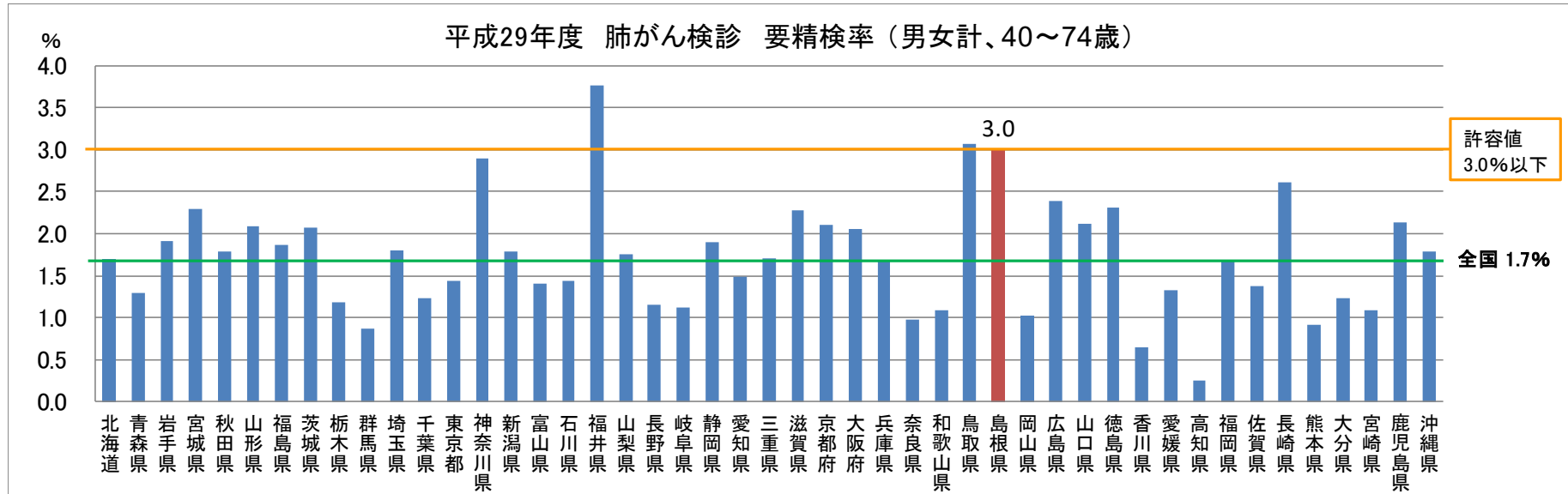


(2) 平成29年度 肺がん検診の精密検査の状況

①平成29年度 要精検率 (男女計、40-74歳)

(資料：市区町村表 第27-1,28-1表)

➤ 要精検率は3.0%。全国よりも高く、国の許容値上限に達している

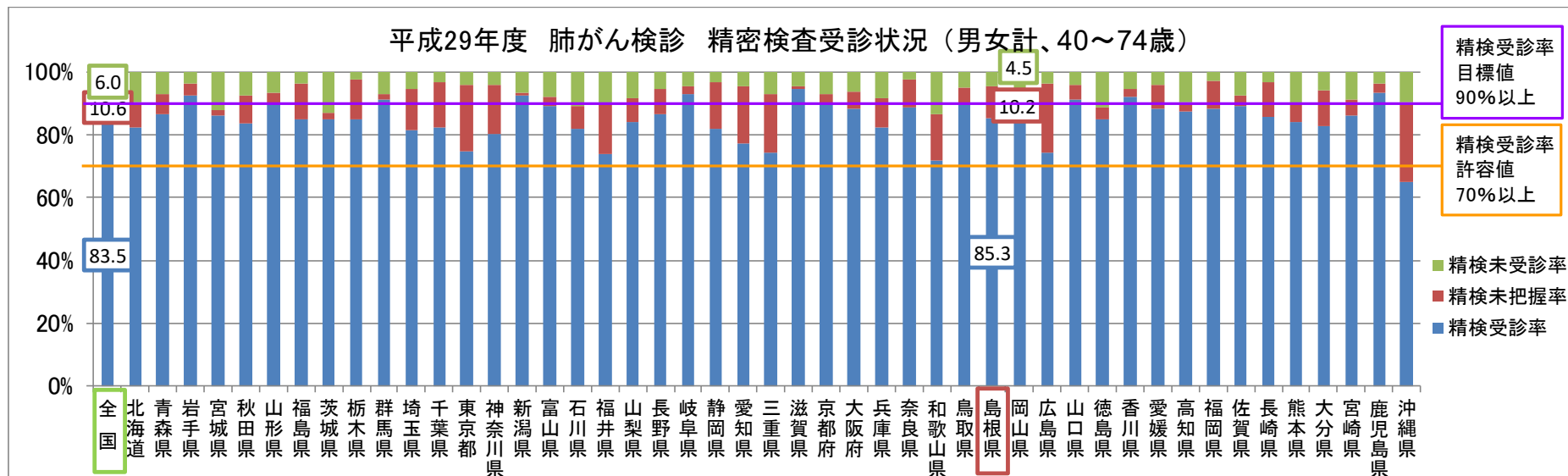


➤ H26以降、要精検率が上昇しつつある

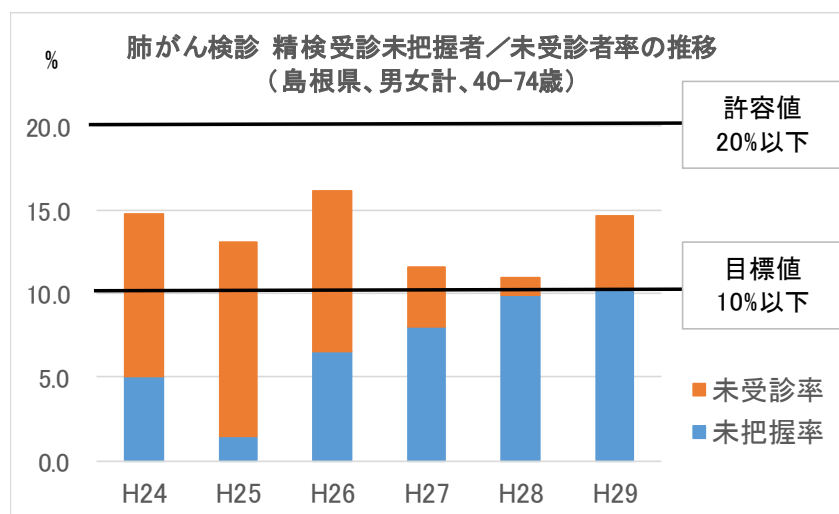
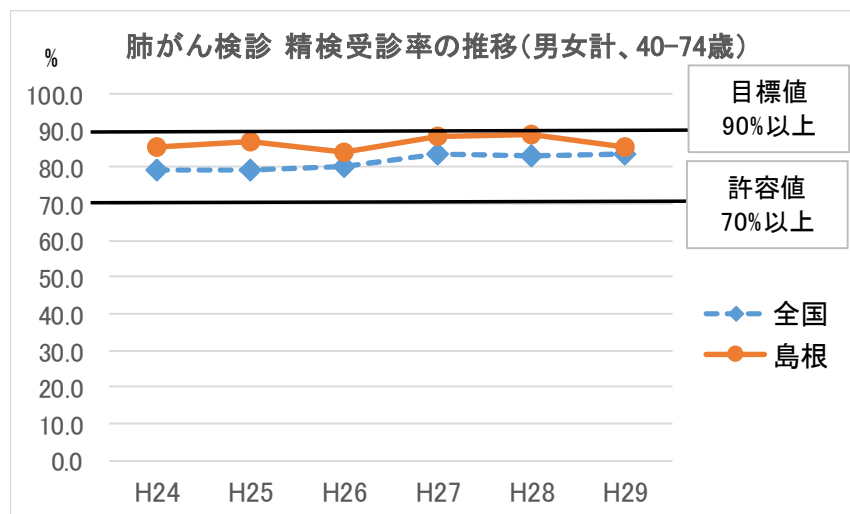
②平成29年度 精検受診率・未把握率・未受診率 (男女計、40-74歳)

(資料：市区町村表 第27-1,28-1表)

➤ 精検受診率は85.3%。全国よりも高く、国の目標値90%以上まで、あと約5%



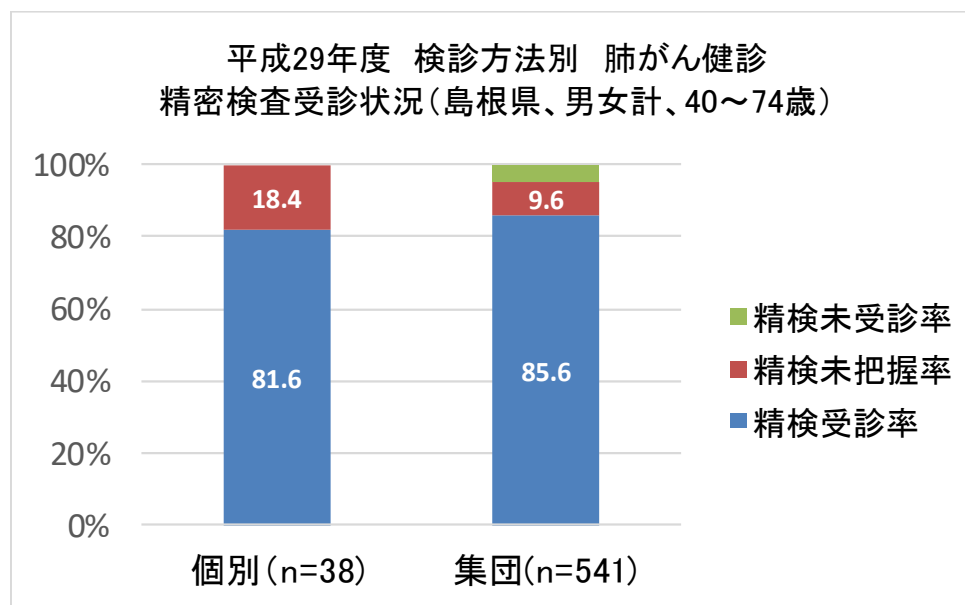
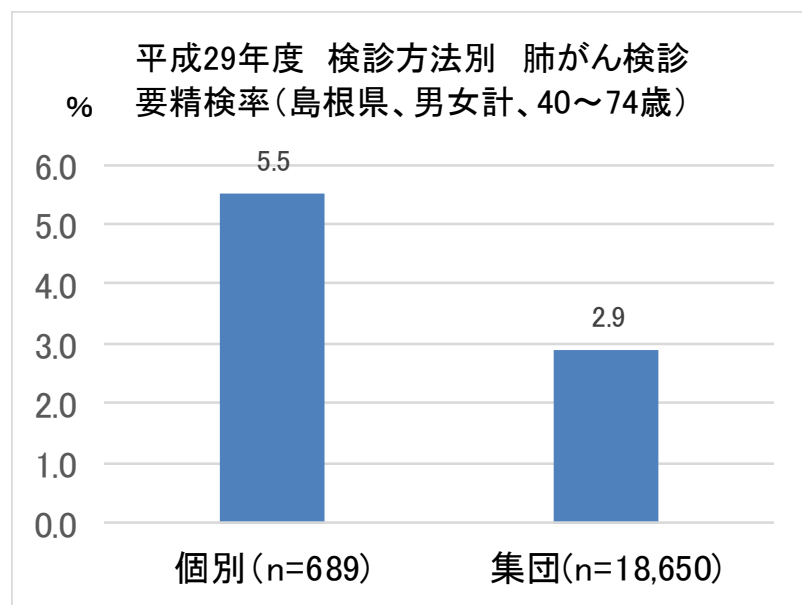
➤ 近年、精検未把握率が上昇傾向



③平成29年度 検診方法別 要精検率、精検受診率・未把握率・未受診率 (男女計、40-74歳)

- 要精検率は個別検診で5.5%、集団検診で2.9%と個別検診が高い
- 個別検診の精検未把握率は18.4%

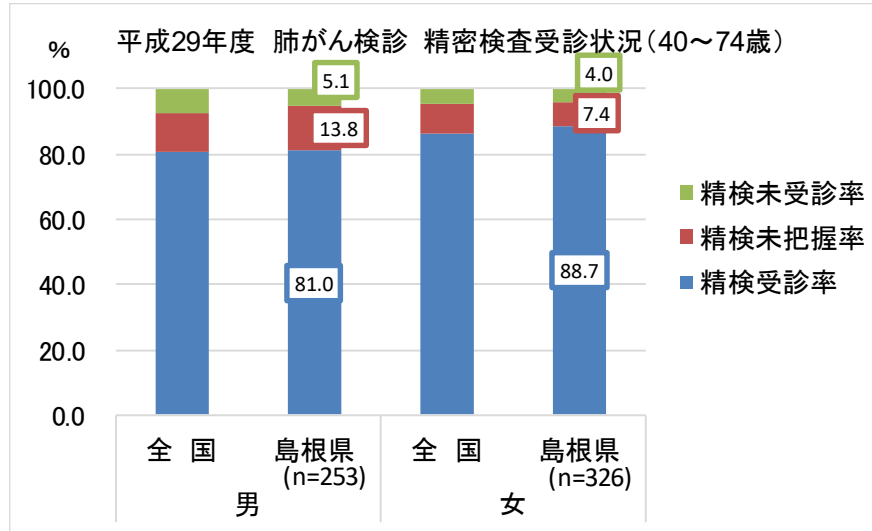
(資料：市区町村表 第27-2,28-2,27-5,28-5表)



* 精検未把握：精検受診の有無が分からないもの。及び、精検受診していても精検結果が正確に分からないもの

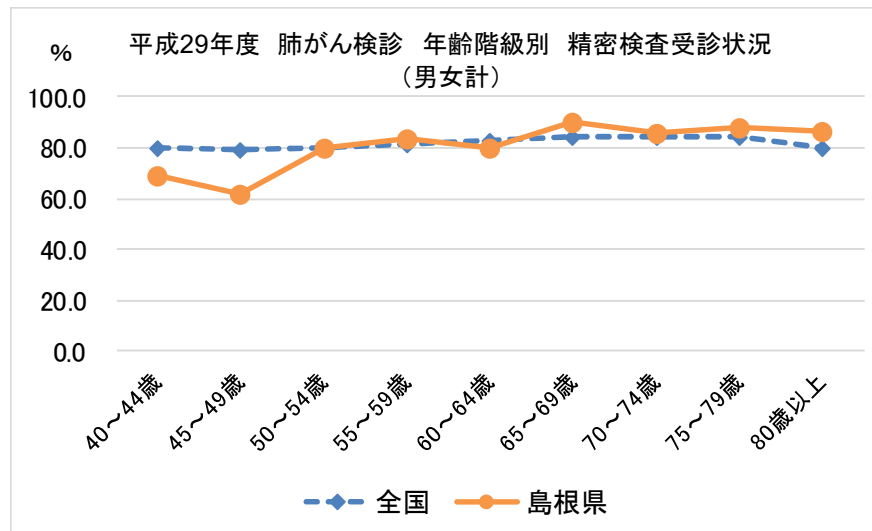
④平成29年度 性別、年齢階級別精検受診率（40-74歳）

➤ 精検受診率は男性よりも女性が高い。



(資料：市区町村表 第25-1,26-1表)

➤ 40歳代の精検受診率は他の年代よりも低い。

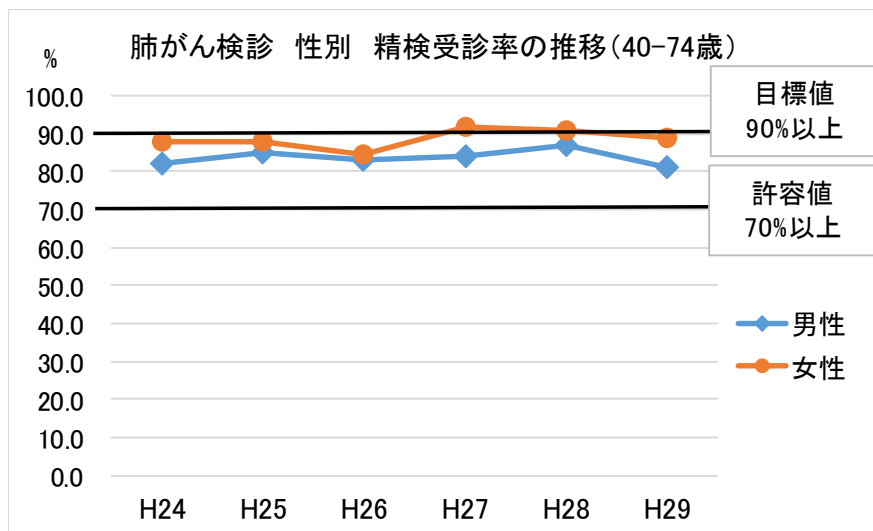


※地域保健・健康増進事業報告：他県で40-74歳の階級で計数不詳あり。計数不詳は計数なしとみなして全国の各割合を算出した

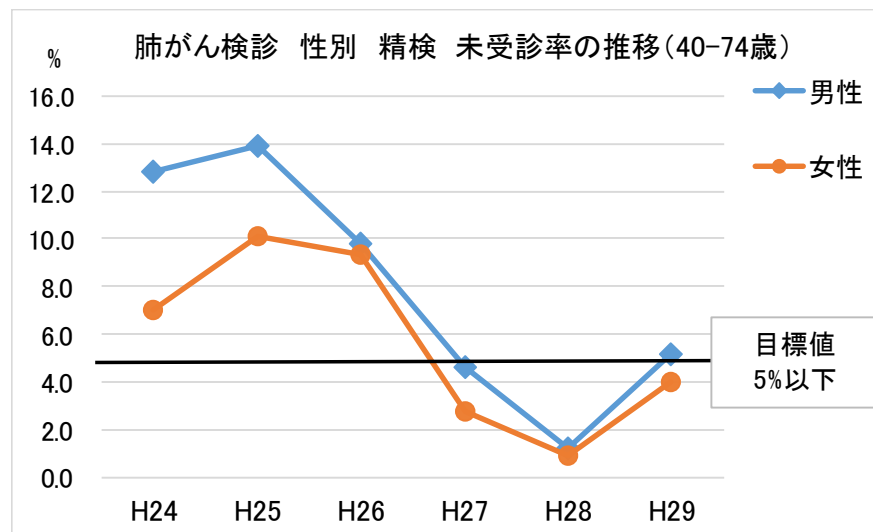
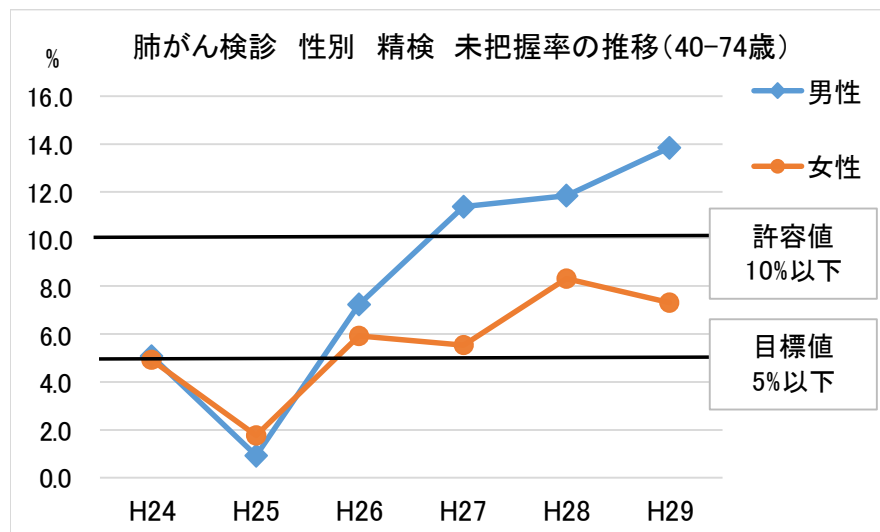
⑤性別 精検受診率・未把握率・未受診率の推移（40-74歳）

（資料：市区町村表 第27-1,28-1表）

➤ 女性の精検受診率は目標値90%以上に近いところで推移



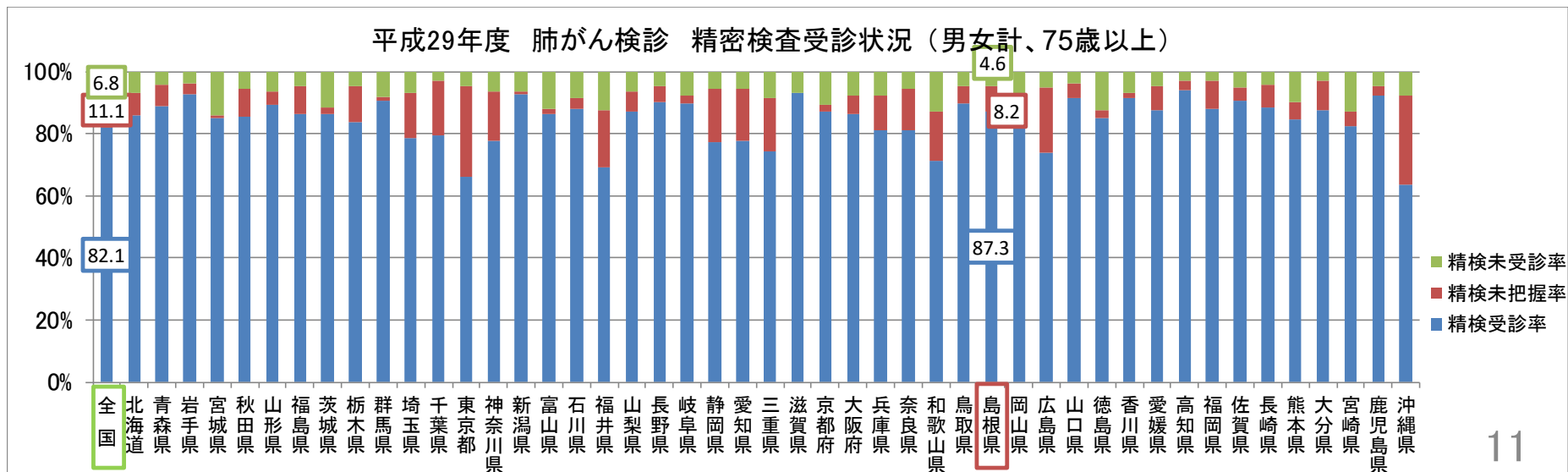
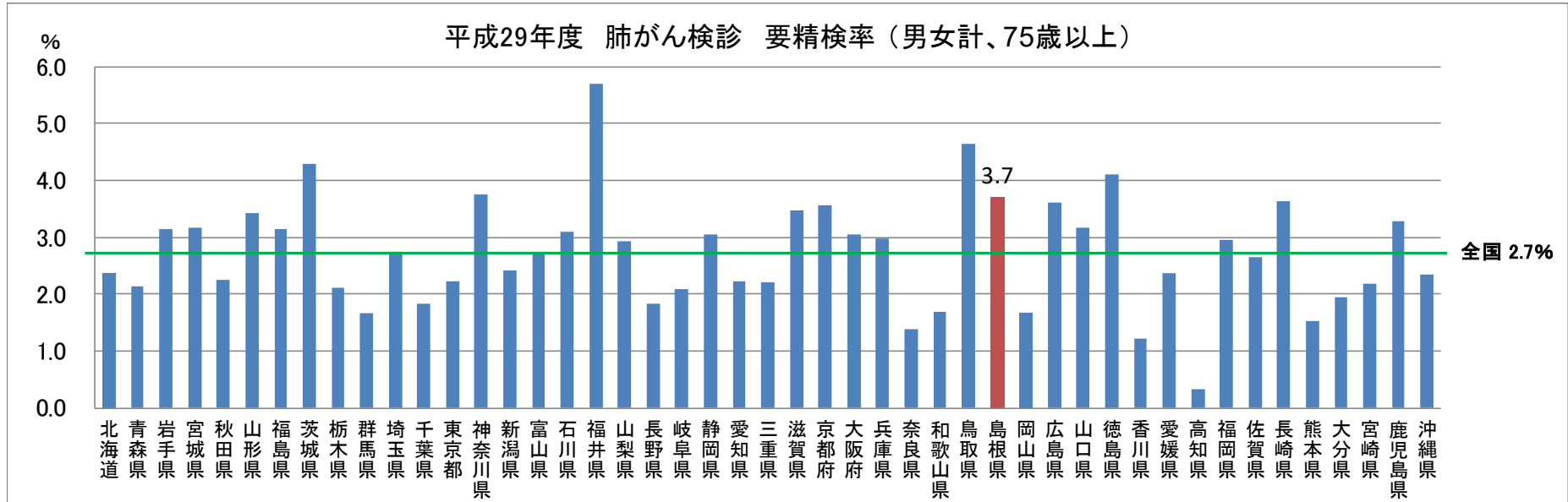
➤ 男性は女性よりも精検未把握率が高く、近年は10%（許容値）を超えている



【参考：75歳以上】

平成29年度 要精検率、精検受診率・未把握率・未受診率（男女計）

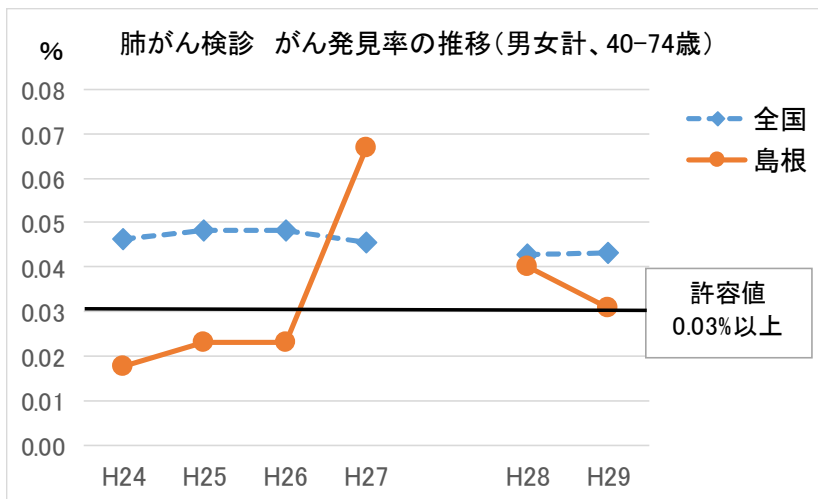
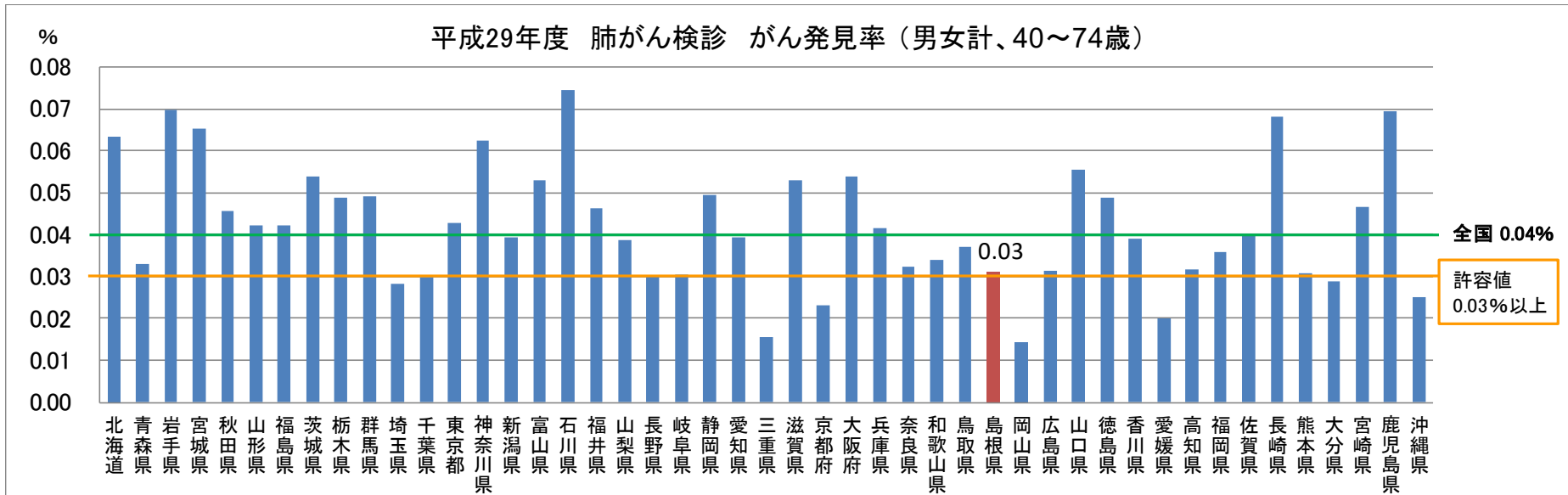
（資料：市区町村表 第27-1,28-1表）



⑥平成29年度 がん発見率 (男女計、40-74歳)

(資料：市区町村表 第27-1,28-1表)

➤ がん発見率は0.03%。全国より低く、国の許容値の下限と等しい



早期がん割合 (40-74歳)

	H28	H29
島根	50.0	83.3

➤ 早期がん割合は高く約8割

※国立がん研究センターの分析では、多くの地域で早期がん数の報告漏れが推測されるため掲載は見送られている

* 早期がん割合

$$\frac{\text{がんであった者 (転移性を含まない) のうち早期がんの者数}}{\text{がんであった者 (転移性を含まない)}} \times 100$$

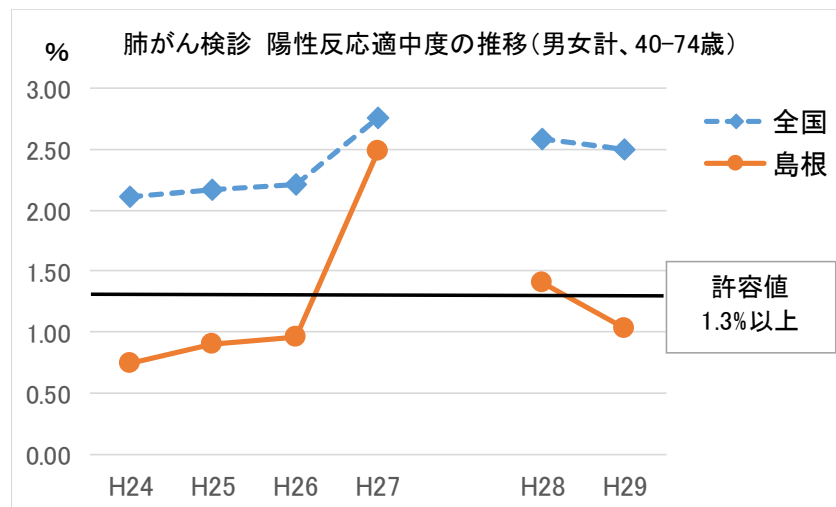
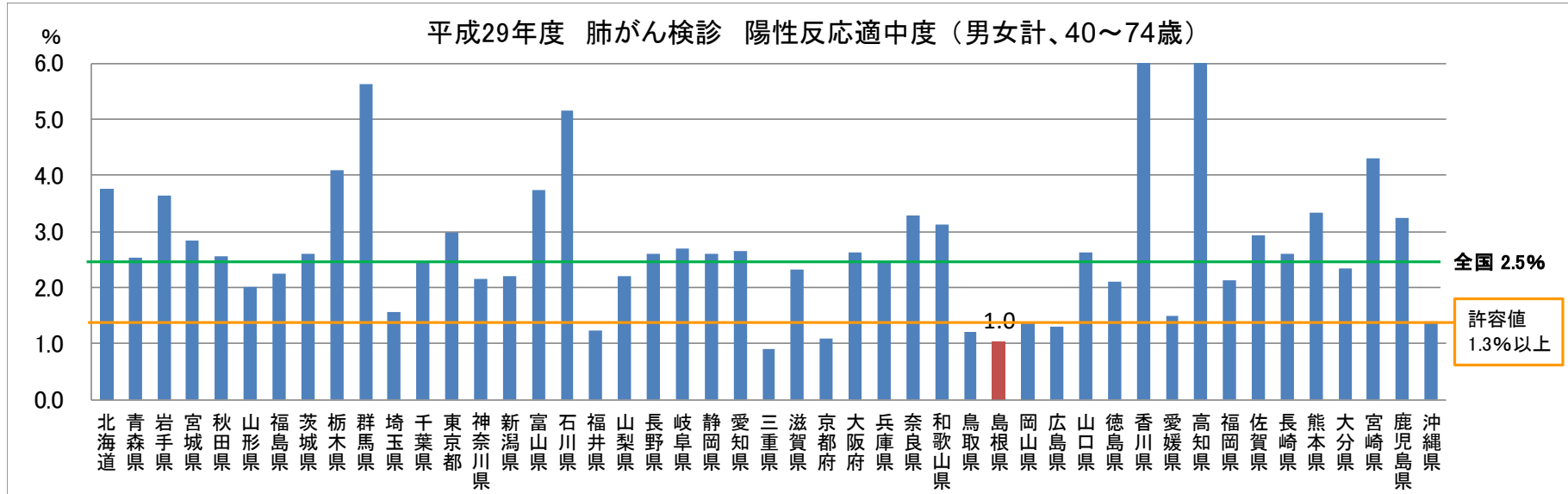
※地域保健・健康増進事業報告では、40-74歳の各階級でがんであった者の計数不詳の県が多いが、計数不詳は計数なしとみなしてがん発見率、早期がん割合を算出した

※平成28年度から「がんであった者」の表記が「がんであった者 (転移性を含まない)」に変更され、原発性のみを計上

⑦平成29年度 陽性反応適中度 (男女計、40-74歳)

(資料：市区町村表 第27-1,28-1表)

➤ 陽性反応適中度は1.0%。全国より低く、国の許容値1.3%以上に届いていない



※地域保健・健康増進事業報告では、40-74歳の各階級でがんであった者の計数不詳の県が多いが、計数不詳は計数なしとみなして陽性反応適中度を算出した。

※平成28年度から「がんであった者」の表記が「がんであった者（転移性を含まない）」に変更され、原発性のみを計上

【参考：40歳以上総数】

平成29年度 がん発見率、陽性反応適中度 (男女計)

(資料：市区町村表 第27-1,28-1表)

